

新市発足30周年記念
GUIDE BOOK
THE KURASHIKI

第11回 町並みと川と緑のシンフォニー

倉敷音楽祭

1997年3月15日(土)→3月23日(日)

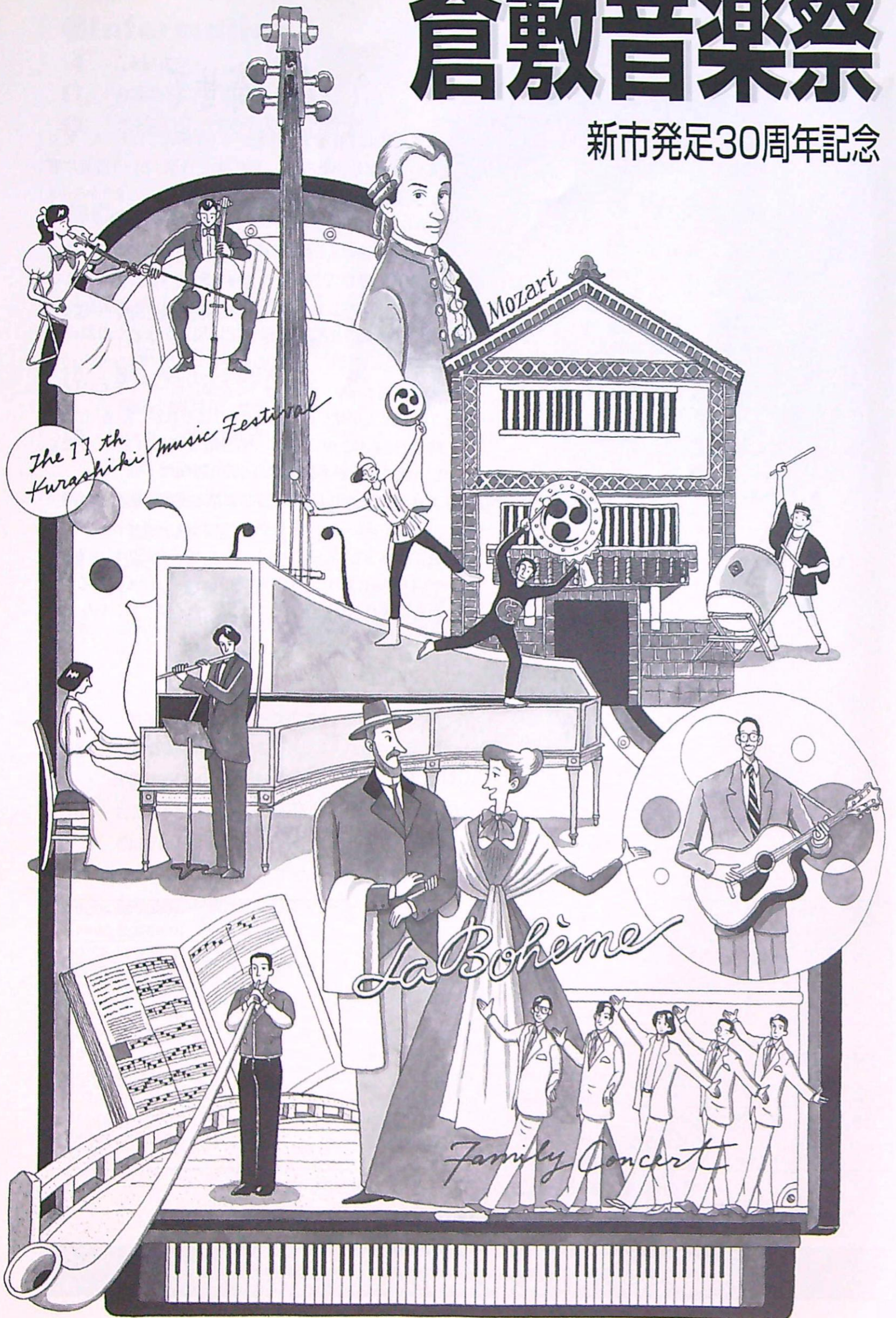
音楽はみんなのもの。
音楽はたのしむもの。



■主催 (財)倉敷市文化振興財団・倉敷市 ■共催 岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会 ■協賛 財団法人川鉄21世紀財団・三菱自動車 ■協力 アルスクらしき友の会
■後援 文化庁・岡山県・岡山県郷土文化財団・朝日新聞社・岡山日日新聞社・共同通信社・倉敷新聞社・産経新聞社・山陽新聞社・中国新聞社・日本経済新聞社・毎日新聞社・読売新聞社
NHK岡山放送局・岡山放送・山陽放送・瀬戸内海放送・テレビせとうち・西日本放送・音楽之友社(順不同)

倉敷音楽祭

新市発足30周年記念



あなたと創る *Creating Together*  三菱自動車

シートベルトをしめて、スピードをひかえめは、安全運転は三菱の願いです。

人なつっこい
クルマです。



ミニカタウンビー



トッポタウンビー



タウンビー主要装備●専用シート生地●木目調インテリア●運転席SRSエアバッグ●エアコン●ハワステ●オーディオ●セーフティ機構付パワーウインド●UVカットガラス●丸型ヘッドランプ
(内装の写真はすべてトッポタウンビーです)

街のニューフェイス。タウンビー

Town Bee

トッポ(2WD/4WD) ミニカ(3ドア/5ドア)

写真右:トッポタウンビー(2WD/ボディカラーはロアンヌレッド) 写真左:ミニカタウンビー(5ドア/ボディカラーはヒレネブラック) ■価格:トッポタウンビー 103.8万円(2WD・5M/T) ミニカタウンビー 87.2万円(5ドア・5M/T) / 82.7万円(3ドア・5M/T) ■価格にはスペアタイヤ、標準工具一式が含まれます。■販売会社でセットする付属品は別途扱いとなります。■寒冷地仕様代ならびに保険料、税金(含む消費税)、登録等に伴う費用等は別途申し受けます。■価格は全国メーカー希望小売価格です。希望小売価格は参考価格です。価格は各販売会社にお問い合わせ下さい。*中央、生け垣のグリルは、撮影用です。

●Information

- 4 ごあいさつ
- 51 会場案内&アクセス
- 52 アルスくらしき友の会入会のご案内

●Concert

- 5 街角コンサート
- 8 オペラ「ラ・ボエーム」
- 12 有田正広古楽器コンサートシリーズ
「バロック・コンチェルトの饗宴」
- 16 渡辺一史のトーク&ピアノコンサート
「楽しくなければ、音楽ではない」
- 18 ツィターと箏の演奏会
「若さと伝統の思いがけぬ出会い」
- 20 倉敷音楽祭祝祭管弦楽団・究極の室内楽シリーズ X PART1
「弦楽器と管楽器の夕べ」
- 22 しゅうさえこ×デューク・エイセス
「ファミリーコンサート」
- 24 倉敷音楽祭祝祭管弦楽団・究極の室内楽シリーズ X PART2
「ピアノと管楽器の夕べ」
- 26 SPレコードコンサート
「倉敷にただようウィーンの香り」
- 28 倉敷音楽祭祝祭管弦楽団メンバーによる
「芸文館ロビーコンサート」
- 30 さだまさしコンサート'96 ~'97
Old Fashioned Love Songs
- 32 アンサンブル・レネットコンサート
- 34 倉敷音楽祭祝祭管弦楽団コンサート

●Special issue

- 40 オペラを10倍楽しむ法
- 42 MUSIC UP TO DATE

■倉敷音楽祭「ザ・倉敷」

Publisher/アルスくらしき友の会
Director/株式会社協同企画 倉敷支社
Designer/小郷恵子
Illustrator/藤井敬士
Editor/株式会社エディタース
Special thanks/(財)倉敷市文化振興財団
Cover Design/藤若典弘
発行日/1997年2月20日
発行/アルスくらしき友の会
倉敷市中央1-18-1倉敷市芸文館内
☎086-434-0505
企画・制作/株式会社協同企画 倉敷支社
印刷・製本/株式会社正文社印刷所

■参考文献

「クラシックの快楽」キーワード事典編集部/洋泉社
「クラシックの快楽2」キーワード事典編集部/洋泉社
「音楽百話」志鳥栄八郎/総合法令
「クラシック作曲家アラカルト」中堂高志/三省堂
「オペラ101物語」オペラハンドブック編/新書館
「これだけは見ておきたいオペラ」木之下晃・堀内修/新潮社
「これがオペラだ」國土潤一/音楽之友社
「ピアノの誕生」/講談社選書メチエ55
「音楽大事典」/平凡社

Contents

1997.3/15 [SAT] ~ 3/23 [SUN]

春に寄せて

ことさらに「音楽」というとつい身構えてしまう人、案外多いのではないだろうか。それは、「音楽」という言葉に難しい音楽用語やルールを結び付けて考えてしまうからかもしれない。

でも、音楽はもともと気楽に親しんでいいものだ。「音を楽しむ」と書いて“音楽”。何もクラシックだけが音楽ではないし、ポップス、ロック、歌謡曲、邦楽、民族音楽など、そのジャンルはさまざま。最近では環境を含めた自然の音を音楽として楽しんだり、心を癒すヒーリングミュージックも人気が高まっている。いまや、音楽にボーダーラインはなくなり、聴く人が楽しむことができればそれが“音楽”になる時代だ。そんな中で、少しでも素敵な音に出会い、すばらしい音楽体験ができれば幸せだと思う。

倉敷音楽祭にはさまざまな音楽が満載。街角でアマチュアミュージシャンの熱気や、陽気なストリートオルガンの音色に触れてもいいし、室内楽や古楽器などクラシックコンサートにチャレンジしてみるのもいい。音楽を真から愛する人々の心に触れたなら、きっとあなたもそれを楽しむことの心地よさに魅かれていくに違いない。

TICKET AGENCY

《倉敷音楽祭祝祭管弦楽団3公演セット券をご利用ください。》

祝祭管弦楽団コンサート・究極の室内楽シリーズPART1・2の3公演が鑑賞できます。

■Sセット 9,000円 ■Aセット 8,000円 ■Bセット 7,000円

※倉敷市文化振興財団チケットセンターのみの限定発売。

倉敷	JR西日本TiS倉敷	☎086-422-0100	岡山	JR西日本TiS岡山	☎086-223-2030
	コア・トミヤマ	☎086-422-1549		ぎんざや	☎086-222-3244
	ヤマハ・ミュージック岡山 倉敷支店	☎086-422-7331		岡山シンフォニーホールチケットセンター	☎086-234-2010
	天満屋倉敷店	☎086-426-2123		天満屋岡山店	☎086-231-7200
	三越レディスクラブ	☎086-423-3122		岡山高島屋	☎086-232-1111
	インディスク	☎086-422-1457		岡山県音楽文化協会	☎086-224-6066
	倉敷市民会館	☎086-425-1515	玉野	関西楽器	☎0863-21-3076
水島	水島臨海サービス	☎086-448-1707	津山	吉田楽器	☎0868-23-4110
	タッカー1	☎086-444-8523	鴨方	まつなが食品店	☎08654-4-2463
児島	児島文化センター	☎086-473-1250	福山	スガナミ楽器	☎0849-23-6150
玉島	新倉敷ショッピングデパートパオ	☎086-525-5833		天満屋福山店	☎0849-27-2111
	玉島文化センター	☎086-525-2611	高松	ヤマハ高松店	☎0878-22-3068
	JR西日本TiS新倉敷	☎086-522-1471			

その他、全国JTB窓口、チケットぴあでも取り扱っています。

TICKET ADVICE

公演に関するお問い合わせは(財)倉敷市文化振興財団 ☎086-434-0505へ。
チケットの購入・お申込みは同チケットセンター ☎086-434-0010か、上記のプレイガイドで。

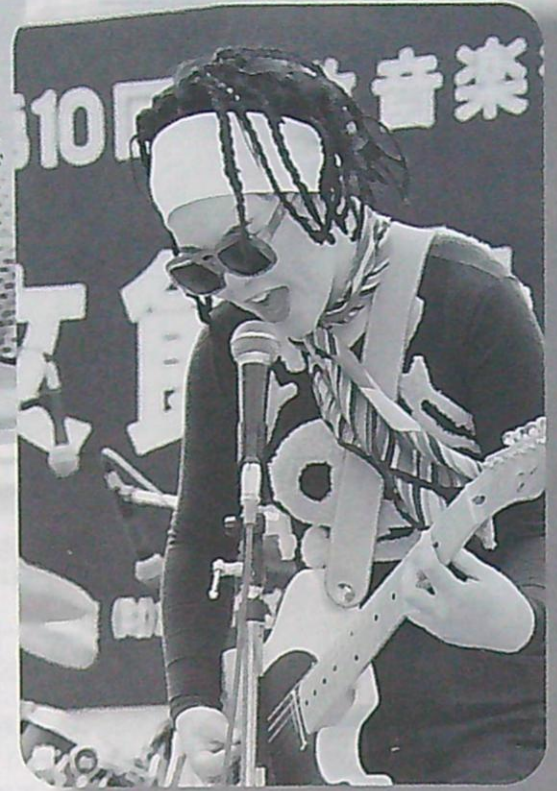
広場ステージ



第10回倉敷音楽祭写真展より
佳作「ドレスが舞う」武内光男さん

盛り上げるのはみんな。

第10回倉敷音楽祭写真展より
佳作「ドレッド・ヘアー」岡本美代子さん



白壁の町並みが音楽に包まれるとき——

街角コンサート

会場は倉敷美観地区。コンサートの主役は、そこに訪れる人たちすべて。街角コンサートは、だれでも自由に参加できるいわばオープンフリーの音楽会だ。会場に足を踏み入れた瞬間から、あなたを陽気な音楽の世界へと誘ってくれるはず。

倉敷音楽祭

THE KURASHIKI MUSIC FESTIVAL ■ 3月17日(日)→24日(日)



とびきりのスマイル

EVENT 1

オープニング

- 【パレード】
- 3月15日(土)
 - 時間/15:00~15:30
 - 会場/倉敷駅前~商店街~美観地区
- 【セレモニー】
- 3月15日(土)
 - 時間/15:30~16:00
 - 会場/倉敷美観地区特設水上ステージ
(雨天の場合は天満屋倉敷店前)

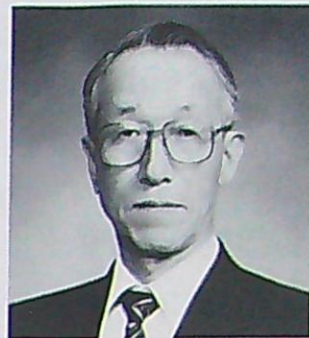
倉敷音楽祭の最初の1ページを飾るイベント。富田保育園、倉敷商業高等学校、倉敷市消防音楽隊など倉敷市内の全6団体が倉敷駅前からメイン会場の美観地区まで元気よくパレードした後は、美観地区倉敷川水上に設けられた特設ステージで第11回倉敷音楽祭の開会を宣言。第10回という一つの区切りを終えて最初の倉敷音楽祭。また一つ、新しい歴史を刻み始めるのである。



倉敷市長
中田 武志



(財)倉敷市文化振興財団理事長
三浦 朱門



アルスクラしき友の会会長
藤田 温

日本の伝統文化と西洋文化が共存している街倉敷は、市民ばかりでなく、全国の観光客の皆様にも親しまれております。

古き良き時代を偲ばせる美観地区は、今や全国屈指の観光地というだけでなく、クラシックの似合う街、音楽文化の香り高い街として倉敷音楽祭を通して名声を高めてまいりました。

昭和62年3月、新市発足20周年を記念し、第1回倉敷音楽祭が開催されました。以後、毎年3月には、倉敷市民会館を主会場に早春の美観地区一帯を舞台に奏でられる音色で、数多くの人々に感動を与え続けてまいりました。

第10回を迎えた昨年は、朝比奈隆氏の指揮する「倉敷音楽祭祝祭管弦楽団」が、第2回の音楽祭から連続演奏を続けてきたベートーヴェン交響曲の最終曲「第九」を市民合唱団と共に演奏し、多くの聴衆を魅了し、大きな節目を大成功で締めくくることができました。

今年は新市発足30周年を迎え、倉敷音楽祭も第11回目として新たなスタートをいたします。近年、全国的に音楽祭が多彩に繰り広げられておりますが、これを契機として今後の音楽祭に求められるものは何かを考え、新たな倉敷音楽祭を創っていかねばなりません。

昨春開学した作陽音楽大学や、今年7月に開演予定の倉敷チボリ公園など、本市の音楽文化には新しい状況が加わってきております。第11回を迎えるにあたり、これまで培ってきた倉敷音楽祭のイメージを保ちながら、新たな音楽状況をも取り込み、さらに市民一体となって盛り上げ、倉敷音楽祭を通じて、文化都市倉敷を国内はもとより世界へ発信できるよう、よりいっそう努めてまいりたいと思います。

1997年も開けて、季節の上の春も近くなり、あらゆる分野の活動も、新しい年にふさわしく全力運転を開始しようとする時期になった。私たちの文化振興財団も、ここに決心を新たに、初心を忘れずまた21世紀という百年単位の時間を視野にいれて、過去への反省を行い、また未来の計画を練らなければならぬ。

20世紀が二度の大戦とその後の冷戦が象徴するように、列国の覇権をめぐっての争いであった。しかしこの世紀の終わりにソ連の崩壊を見だし、アメリカという最後の超大国もまた、普通の国になろうとしている状況がある。まだ未来の超大国を目指している国もないではないが、それは時代錯誤というものであろう。来世紀は、それぞれの国がそれぞれの形で特色を生かしながら、世界に貢献する世紀と言えるのではないだろうか。

そしてわが倉敷も決して大都市ではないとはいえ、このような世界的風潮の下では、巨大都市の文化に包含されることなく、その特殊性をたとえば文化の面で発揮して、日本全体に影響を及ぼすことができる。本財団が市民の賛同を得て、仕事を通して市民の文化生活を豊かにし、かつ日本全体の文化向上に尽くすことができれば、関係者としてこれに勝る喜びはないのである。

倉敷川の川面に青柳がまぶしく映えて春を告げる弥生三月、今年も恒例の倉敷音楽祭が華やかに開幕されることになりました。

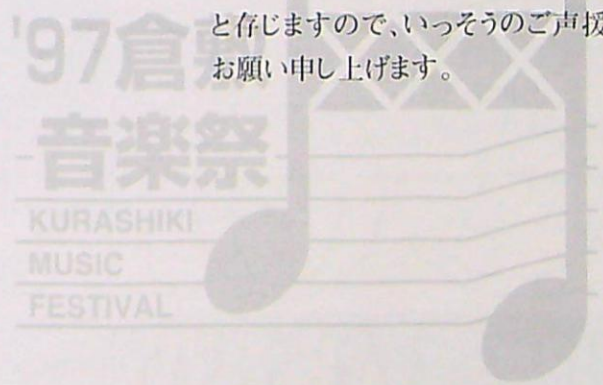
本年は昭和42年に新しい倉敷市が誕生して30周年を迎える記念すべき年ではありますが、これを一つの節目として過去の歩みを振り返り、これまで積み重ねてまいりました10年という倉敷ならではの音楽祭が辿った道のりを静かに回顧してみる時でもあると思います。

ご承知のように今春には中国横断自動車道が開通し、日本海から太平洋まで南北軸によって結ばれます。また、7月には待望のチボリ公園が開園いたしますが、こうしたダイナミックな地域の動勢の中で、東西南北にわたり連携と交流がすすむ活動の要となって三橋時代をリードする中核的役割を果たすのが倉敷市であります。

いよいよ地方の時代が始まりますが、地方の知恵やアイデアによる優れた文化性、独自性を住民の参加とパワーによっていかに実現していくかがこれからの街づくりの課題でもあります。

今年も「倉敷音楽祭祝祭管弦楽団」をはじめとする多彩なプログラムによって春の倉敷が音楽一色で包まれることでしょう。

どうか第11回倉敷音楽祭を皆様方の限りないご支援とご協力により成功させたいと存じますので、いっそうのご声援を切にお願い申し上げます。



EVENT 2

町並みコンサート

●3月16日(日)・20日(木・祝)・22日(土)
・23日(日)

●時間/各会場10:00~15:00

●会場/倉敷美観地区特設水上ステージ
倉敷市芸文館広場ステージ
倉敷美観地区大原美術館前ステージ
倉敷美観地区白い館会場
(ピアノ会場)

プロ、アマ、ジャンルを問わず誰でも参加できるスタイル自由のコンサート。ギターアンサンブル、コーラス、和太鼓、フラメンコ、ピアノソロなどなんでもアリの町並みコンサートは、日頃の練習成果を発揮する絶好のチャンスとあって、年々、参加者も急増中だ。ステージに立てばみんなスター。その熱い思いを感じてほしい。

CHECK!

美観地区の白い館会場(倉敷館)は、ピアノ演奏専用。また、雨天の場合は白い館会場以外はすべて中止。



第10回倉敷音楽祭写真展より
銅賞「僕の出番だ」谷脇忠さん



第10回倉敷音楽祭写真展より
入選「これなーに?」山下茂さん

EVENT 3

ストリートパフォーマンス

●3月16日(日)・20日(木・祝)・22日(土)
・23日(日)

●時間/10:00~15:00

●会場/倉敷美観地区内

音楽祭の“顔”といえばアルプホルンとストリートオルガン。本場・スイスで購入した5

本のアルプホルンを使用し、牧歌的でどこかな響きを楽しませてくれる。一方、ストリートオルガンは、ハンドルを廻すと数々の名曲がとびだす音の玉手箱。燕尾服に山高帽のユニークな出で立ちで、愛嬌たっぷりに演奏する。ノスタルジックなそのサウンドは、倉敷音楽祭が始まった当初のままで。

CHECK!

アルプホルンは上記の時間のうち、適時3~4回、15分程度演奏する。聞き逃さないよう注意しよう。ストリートオルガンは、美観地区を歩きながら適宜演奏中。お願いすれば気軽に演奏させてもらえる。



周囲の人たちも注目!



お琴とお茶の会
第10回倉敷音楽祭より



EVENT 4

お琴とお茶の会

- 3月16日(日)・20日(木・祝)・22日(土)・23日(日)
- 時間/10:00~15:00
- 会場/倉敷美観地区「新溪園」

陽気なメロディーに心踊らせた後は、お琴の調べに耳を傾けながら、静かに抹茶を一杯。大原美術館裏手にある日本庭園・新溪園を会場に、市内各社中によるお琴の演奏会が開催される。同時に、お茶室では表・裏・速水の各流派によるお抹茶のおもてなしがある。美観地区内での思わぬ演出に、観光客には人気が高い。

お抹茶はお菓子付きで300円。当日券あり。

【第11回当番予定表】

	お琴	お茶
3月16日(日)	箏曲千鳥会 中塚千栄寿	裏千家 藤原宗恵
3月20日(木・祝)	倉敷琴友会 渡谷元子	速水流 内田宗公
3月22日(土)	箏曲佐伯会 佐伯明彦	速水流 吉川宗幸
3月23日(日)	箏曲やよい会 白神明恵	表千家 平松宗美



EVENT 5

倉敷音楽祭写真展

- 3月15日(土)・16日(日)・18日(火)~23日(日)
- 時間/9:00~17:00
但し23日(日)は9:00~12:00
- 会場/倉敷市観光休憩所

前年の倉敷音楽祭をテーマとした作品を一般公募する恒例の写真展。今回は348点もの作品が集まり、審査の結果、倉敷市長賞に岡本美代子さんの「春風の紳士」、理事長賞に野上和信さんの「演奏」が選ばれた。今回は、この2作品を含め、多数の入賞作品・応募作品を展示する予定。

CHECK!

倉敷音楽祭写真展では、次回写真展の作品を大募集。第11回の音楽祭期間中、街のあちこちで出会う感動的なシーンや素敵な笑顔、ユニークなひとコマなどを、あなたならではの視点でとらえ、来年の写真展に応募しよう。

詳しくは(財)倉敷市文化振興財団☎086-434-0505へ。

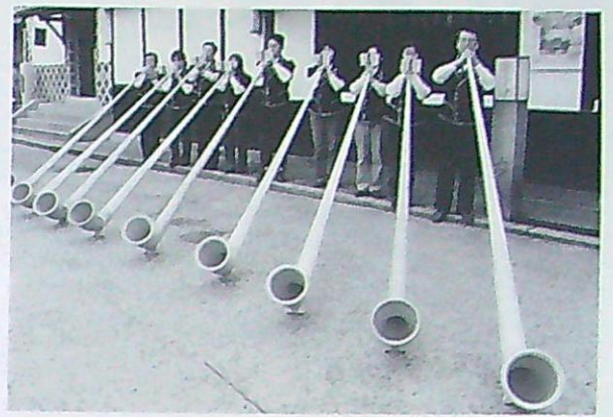


第10回倉敷音楽祭写真展より
理事長賞「演奏」野上和信さん



第10回倉敷音楽祭写真展より
市長賞「春風の紳士」岡本美代子さん

第10回倉敷音楽祭写真展より
銅賞「ぼくらの指定席」武内光男さん



第10回倉敷音楽祭写真展より
佳作「勢ぞろい」虫明正志さん

EVENT 6

協賛事業 アマチュア無線局 公開運用



アマチュア無線局公開運用
「CACA……」。電波にのせてどこまでも

- 3月15日(土)・16日(日)・22日(土)
- 時間/9:00~17:00
- 会場/倉敷市観光休憩所

電波にのせて世界各国に倉敷音楽祭の開催を知らせる夢あふれるイベント。倉敷市役所ハムクラブ、倉敷市消防アマチュア無線クラブの2つのアマチュア無線クラブの協力のもと、倉敷市観光休憩所に設けた無線局から発信する。これまでにロシア、韓国をはじめ、最も遠いところでちょうど地球の裏側にある南米チリに住む無線ファンと交信した記録もあるとか。世界の人々との交信成功の瞬間を目の当たりにするのも、また感動的だ。

CHECK!

めでたく交信できた人には、第11回倉敷音楽祭のポスターをデザインしたオリジナル交信証を発行。美しいイラスト入り交信証は、無線ファンたちにも好評。毎年、これをコレクションしているマニアもいるらしい。

これまでの音楽祭で使用された交信証



3.15
Saturday

- 日時
 - ・第1回公演/3月15日(土) 開演 18:30
 - ・第2回公演/3月16日(日) 開演 15:00
- 会場 倉敷市民会館
- チケット 全席指定 S7000円
A5500円
B4000円
C2000円

【スタッフ】

- 指揮 山上純司
- 演出 松本重孝
- 美術 荒田 良
- 照明 服部 基
- 衣裳 八重田喜美子
- 舞台監督 菅原多敬弘
- 演出助手 池山奈都子
- 字幕 松本重孝
- 衣裳助手 河底美由紀
- 舞台監督助手 佐藤公紀
増田健彦
萬 一美
曾田浩子
- 合唱指揮 岩城拓也
- 副指揮 船曳圭一郎
大塚 博
- コレペティートル 揃 洋子
- オーケストラ指導 菊池 東

【キャスト】

- ミミ 高橋昌子 (15日)
岡崎順子 (16日)
- ムゼッタ 大森友子 (15日)
土井範江 (16日)
- ロドルフォ 北村敏則 (15日)
揃 敏幸 (16日)
- マルチェロ 井上敏典 (15日)
岡本茂朗 (16日)
- ショナール 宮本益光
- コルリーネ 大原正義
- アルチンドロ・ブノア 秋山 啓
- セルゲント 川西 顕
- 管弦楽 倉敷管弦楽団
- 合唱 「ラ・ボエーム」合唱団
- 大道具製作 つむら工芸
- 大道具設営・操作 つむら工芸 チクバ
- 照明操作 ライティングカンパニーあかり組 チクバ
- 衣裳 東京衣裳
- かつら・メーキャップ 丸善
- 小道具 ザ・スタッフ 津田香織
- 履物 神田屋
- 字幕操作 アルゴン社



オペラ「ラ・ボ

「蝶々夫人」「トスカ」と並び、世界的な人気を持つプッチーニの名作「ラ・ボエーム」が倉敷音楽祭に登場。中国二期会を中心に、市内の各種合唱団メンバーによるキャストイングで華麗な舞台が繰り広げられる。より本場の雰囲気味わえるように、歌詞はイタリア語で字幕スーパーを使用。パリを舞台にした甘くせつないストーリー、美しい名曲の数々に、しばし酔いしれてみたい。(P.40「オペラを10倍楽しむ法」をご参照ください。)

【登場人物】

- ミミ……お針子
- ムゼッタ……女店員
- ロドルフォ……詩人
- マルチェロ……画家

- ショナール……音楽家
- コルリーネ……哲学者
- ブノア……家主
- アルチンドロ……政府高官
- セルゲント……税官

《あらすじ》

- と き:1830年頃
- と ころ:パリのラテン区

●第1幕 パリのアパートの 屋根裏部屋

画家のマルチェロは画架に向かい、大作に取り組んでいるが、思うように仕事はかたらない。詩人のロドルフォは「パリの空の下にはたくさんの煙突から煙が出ているのに、薪もないわが家の暖炉は怠け者で働きもしない」と、寒さに震えながら自分の原稿を暖炉で燃やし始める。その

うち、哲学者のコルリーネも質屋が休みで本を売ることができなかったと言いながら帰ってくる。

そこへ音楽家のショナールが現れる。彼はうまくお金を稼ぐことができ、薪や食べ物を持って帰った。大喜びした仲間たちと一緒に食事を始めたところへ、大家のブノアが家賃の取りたてにやってくるが、四人は彼を上手に追い返す。ショナールは「町へ行って景気よくやろう」と誘うが、ロドルフォは急ぐ原稿を仕上げたから行く一人部屋に残る。

しばらくすると、入口の扉を叩く音がして「ローソクの火を借りたい」と女の声が聞こえる。ドアを開けると階下に住むミミが立っているが、胸に病のある彼女は階段を上がっただけで息切れがし、目まいを起こして倒れてしまう。ロドルフォは、彼女を椅子にかけさせ、あわてて介抱する。彼女が元気になると燭台に火をともして送り出す。ところが、彼女は鍵を忘れたことに気づき、戻ってきて入口で立ち止まる。すると、すきま風でロ



エーム」

全4幕

ーソクはまた消えてしまう。それに気づいて燭台を持って出たロドルフォの明かりも消えてしまい、二人は暗い中で手さぐりで鍵を探す。

ロドルフォはまもなく鍵を探しあてるが、そっと自分のポケットに隠す。暗がりの中で鍵を探す二人の手が触れあい、ハッとするミミの手をとってロドルフォは「冷たい手を」の Aria を歌う。自分の身の上話をロドルフォに伝えるように、ミミも「私の名はミミ」の Aria を歌い自分の身の上を話す。

その時、下で待っていた仲間たちが「まだか」と怒鳴る。ロドルフォは二人分の席を頼み、月明かりに照らされたミミの顔を見つめながら「愛らしいおとめよ」と歌いだす。そして二人の心はいっそう燃え上がり、連れ立って街へ繰り出して行く。〔幕〕

●第2幕

ラテン区のカフェ・モミュス 前の広場

クリスマス・イヴの夜。広場にはたくさんの店が並び、陽気な人々で賑わっている。友人たちは

めいめいに店を冷やかしながら歩き、ミミを連れてロドルフォはミミに帽子を買ってやる。モミュスの店にたどり着くと、ロドルフォは友人たちの席に加わり、彼女を皆に紹介する。

やがて食事を始めようとしたところに、ムゼッタがパトロン政府高官で富裕なアルチンドロを従えてやってくる。彼女はマルチェロの昔の恋人だが、気まぐれな性格のせいでマルチェロと仲違いしてしまったのだ。しかし、彼がそこにいるのに気づくとこれみよがしに派手に振る舞う。彼女は「ムゼッタのワルツ」で知られる「私が街を歩くと」を歌いながら、それとなくマルチェロの気を引こうとする。

突然、足が痛いからとパトロン政府高官のアルチンドロに靴を買いに行かせた彼女は、その際にマルチェロの胸に飛び込み、仲直りする。そこへ給仕が友人たちの支払いを持って来るが、高いのに驚く4人組。そこで、ムゼッタは皆の支払いをアルチンドロに押しつけ、マルチェロたちとともに歌いながら逃げ去る。戻ってきたアルチンドロは、給仕が差し出す勘定書の金額に目を回して卒倒する。〔幕〕

●第3幕

オルレアン街道に 続く地獄門の関門前

雪模様の二月の早朝。ミミはマルチェロとムゼッタが働く居酒屋へ、彼を訪ねてやってくる。彼女はクリスマス・イヴからロドルフォと一緒に住んでいるが、近ごろ、彼との生活がうまくいかず相談にやってきたのだ。嫉妬深いロドルフォと彼女の間にはいさかいが絶えず、彼女は疲れ果てていた。ミミはマルチェロからロドルフォが店に来ていることを聞き出すが、マルチェロは彼女をどうなくさめていいかわからない。

そこへ目覚めたロドルフォが外に出てきたので、ミミは急いで木陰に隠れる。彼はマルチェロに「ミミと別れたい」と訴える。ミミは浮気な女で、誰にでも色目を使うというのだ。マルチェロがそれを疑うと「(本当は)別れたくはないが、ミミは病気で、貧しい自分には養生させる力がない、愛だけでは病気は治せない」と本心を告げて嘆く。それを聞いたミミは、むせび泣きながら激しく咳き込む。それに気づいたロドルフォは驚いて駆け寄る。その時、マルチェロは他の男たちとふざけあうムゼッタの声に嫉妬し、急いで店の中に入る。

二人きりになるとミミは静かに「さよなら—あなたの愛を呼び声に」を歌い、「喜んで出てきた元のねぐらに帰ります。荷物は門番に受け取りにやりますが、あの帽子だけは愛の思い出に取っておいてください」と告別の歌を歌う。そして「さよならあまい目さめよ」と、二人の愛の日々

を回想し、別れを惜しむ。そこへムゼッタとマルチェロが言い争いをしながら出てきて、四重唱となる。やがてミミとロドルフォは冷たく雪が降る中、門の外に消えて行く。〔幕〕

●第4幕

もとの屋根裏部屋

数ヶ月後のある午後。ロドルフォは机に向かい、マルチェロは画架の前で絵筆を動かしているが、二人とも別れた女のことを思って仕事を手につかない。ロドルフォは「もう帰らないミミ」と歌いだし、二人は恋人たちが残していった思い出の帽子やリボンをそっと取り出し、楽しかった頃を懐かしむ。

間もなくショナールとコルリーネがリボンを持って帰り、四人はいつものようにふざけ合う。そこへ突然ムゼッタが現れ、ミミが階段の途中まで来ていると告げる。ロドルフォとマルチェロは、急いで衰弱しきっているミミを抱き抱え、ベッドに運ぶ。ロドルフォは再会を喜ぶミミをやさしく介抱する。ムゼッタはショナールたちに、貴族のパトロン元から逃げたミミが叩き歩いているのを見つけ、ロドルフォのそばで死にたいというのでやっとの思いで連れてきたと話す。

ミミは「少し気分がよくなった」というが、その場の誰の目にも彼女の死期が近いことがわかる。ミミは「手が冷たい、マフがほしい」というので、ロドルフォは自分の手で温めてやる。医者と呼ぶにも薬を買うにもお金のない一同は暗然とする。ムゼッタは耳飾りはずし、これで医者と薬をとマルチェロに渡し、自分はマフを取りに出ていく。コルリーネも自分の古い外套を取り外し、金に換えようと感傷的に「古い外套よ」を歌い、ショナールとともに部屋を出ていく。

「みんな出ていってしまったの?」とミミは二人になったのを確かめ、歌いだす。話したいことはたくさんあるといい、「あなたこそ私の愛、私のすべて」と呼びかける。ロドルフォも、今でも君は夕日のように美しいともらす。彼がいつかの帽子を差し出すと、嬉しそうに初めて会った夜の思い出を語り始める。彼が鍵をすぐ見つけたこともわかっていてとうとうりしながら話すが、急に激しい発作に襲われてぐったりする。

外出した仲間が戻り、ミミはマフを手にして喜ぶが、やがて眠くなったと言って目を閉じる。ムゼッタは薬を温めながら聖母に祈りを捧げるが、その甲斐もなくミミは静かに息を引き取る。そうとは知らずに室内に差し込む夕日をささぎろうとするロドルフォ。しかし、涙する仲間たちのようすに気づき、あわててベッドに駆け寄るが、ミミはもう動かなくなっていた。そして彼女を抱き上げ、「ミミ」と叫ぶと、そのまま彼女の亡骸の上に泣き崩れる。〔幕〕



山上純司 (指揮)

東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻前期修士課程修了。指揮を汐澤安彦、遠藤雅古、渡邊暁雄、ビクター・フェルドプリルの各氏に師事。1990年より2年間北西ドイツ音楽アカデミー・テモルト音楽大学に留学。カール・ハインツ・ブレメク教授、ペーター・ヤコビー教授らのもとでオペラの指揮を学ぶ。留学中よりルーマニア国立オラデアフィルハーモニー交響楽団の定期演奏会、チェコの西ボヘミア交響楽団の演奏会に出席。国内では札幌交響楽団、名古屋フィル、大阪フィル、オーケストラアンサンブル金沢、広島交響楽団などを指揮。



松本重孝 (演出)

東京室内歌劇場第1回公演に参加。舞台全般について田原進氏に師事。その後、二期会、藤原歌劇団、関西歌劇団などオペラ150公演余の演出助手を務め、演出を栗山昌良、佐藤信、故栗國安彦の各氏に師事。1984~85年渡伊。帰国後、特に藤原歌劇団の外来演出家による公演では演出助手として活躍する。1992年「楳矩」で藤原歌劇団本公演に演出家としてデビュー。以後、「カルメン」、「楳矩」、「ラ・ボエーム」などを手がけ、確かな成果により世評を高めている。主な演出作品は青山劇場「フィガロの結婚」、モーツァルト・サロン「泥棒とオールドミス」など多数。



船曳圭一郎 (副指揮)

神戸大学教育学部音楽科卒業、同大学院修了。指揮を岡田司氏に師事。現在までに京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪シンフォニカーなど多数の団体を指揮。オペラ分野においても関西二期会を中心に手塚幸紀、佐藤功太郎、小泉和裕、大野和土、岡田司ら各氏のもとで副指揮、合唱指揮を務める。1993年フンパーディング「ヘンゼルとグレーテル」で本格的なオペラデビューを果たした後も、ビゼー「カルメン」、近松創作オペラシリーズの初演を手がける。コンサートとオペラの両面において今後の活躍が期待される若手指揮者の一人。



岡崎順子 (ミミ/ソプラノ)

岡山大学卒業、愛知県立芸術大学大学院修了。金光武義、矢部礼子、小島琢磨、中山佛一、故木下武久、故R・シュトライトらの各氏に師事。ソロ等のコンサート活動の他、リサイタルも開催。オペラでは「フィガロの結婚」のズザナ、「魔笛」のババゲーナ、「カルメン」のミカエラ、「夕鶴」のつづ等を演じる。1990年ドイツに留学。デットモルトにおいてバッハ「クリスマス・オラトリオ」のソプラノ・ソロで好評を博す。現在、岡山県立大学短期大学部助教授、中国短期大学音楽科非常勤講師、中国二期会、岡山バハ・カンタータ協会、日本演奏連盟会員。



岩城拓也 (合唱指揮)

大阪音楽大学大学院オペラ専攻修了。林誠氏に師事。テノール歌手として1987年第56回日本音楽コンクールに入選。その後、数々のオペラで主役として、またソリストとして活躍する。近年は合唱指揮者として高く評価され、特に1986年に大阪フィルハーモニー合唱団の指揮者となって以来、同団を飛躍的に向上させ、朝比奈隆、ジャン・フルネ、若杉弘、秋山和慶、尾高忠明、小林研一郎など名指揮者との演奏は絶賛を博した。その他、「サントリー一万人の第九コンサート」などで数々の合唱団を指導。合唱団の実力を最大限に引き出す誠実な指導ぶりには定評がある。



大森友子 (ムゼッタ/ソプラノ)

東京声専音楽学校教員養成科卒業。同オペラ研究科修了。依田喜美子、矢部礼子、古賀恵美子、坂元陽子、井上清光の各氏に師事。岡山演奏家協会主催フレッシュコンサート、サマーコンサート、倉敷音楽家協会主催20周年記念コンサート等に出演。中国二期会では中田喜直歌曲の夕べ、設立20周年記念ガラコンサートなどに出演。オペラでは、1994年倉敷市芸文館一周年記念オペラ「魔笛」でパミーナ役、平成9年1月の岡山シンフォニーホール5周年記念オペラ「ワカヒメ」では女房役で出演。その他、合唱ソリスト、コンサート等に出演。中国二期会会員。



揃 洋子 (コレペイトール)

鹿児島市出身。作陽音楽大学ピアノ科卒業、同大学専攻科修了。丹代茂、フォルカー・レニックの両氏に師事。1979~80年、イタリア留学。ヴェルディ音楽院のオペラ公演で練習ピアニストとして参加。また、各地の演奏会で伴奏ピアニストとして出演。現在、作陽音楽大学オペラマイスタークラス、札幌オペラスタジオ、神戸アーバンオペラハウスでコレペイトールを務める。現在、作陽音楽大学講師。



土井範江 (ムゼッタ/ソプラノ)

大阪芸術大学芸術学部音楽教育学科卒業。同大学卒業演奏会出演。川下由理、田原祥一郎の両氏に師事。二期会オペラ「カルメン」のフラスキータ役でデビューし、以後、「海にのりゆく者たち」のキャスリン、「こもり」のアデーレ、「魔法の笛」のババゲーナ、「あまんじゃくとうりこひめ」のあまんじゃく等多数の作品に出演するほか、関西日伊音楽協会主催日伊交歓ガラコンサートに出演。また、ソロリサイタルも意欲的に開催している。関西日伊コンクール入選。国立病院附属看護学校音楽講師。レディスコーラス「虹の会」指導および指揮。中国二期会会員。



高橋昌子 (ミミ/ソプラノ)

愛知県立芸術大学卒業、同大学院修了。矢部礼子、小島琢磨、R・リッチ、東敦子、西内玲の各氏に師事。イタリア国立ヴェルディ音楽院に留学。L・グアリーニ氏に師事。日本演奏連盟賞受賞。第21回日伊音楽コンクール第1位。中国二期会オペラ「あまんじゃくとうりこひめ」のうりこひめ役で出演。津山国際総合音楽祭でオペラ「魔笛」のパミーナを演じた他、「秘密の結婚」のカロリーナ等で出演。「ワカヒメ」初演ではワカヒメ役を演じた。現在、岡山大学教育学部助教授、日伊音楽協会、中国二期会会員。作陽音楽大学オペラマイスタークラス準研究員。



北村敏則 (ロドルフォ/テノール)

京都市立芸術大学音楽学部音楽専修を経て同大学院を修了。1988年第2回J・S・G日本国際歌曲コンクール第1位。1990年ウィーンに留学中、第6回ボルツァーノ歌曲コンクール第1位、アダ・ヴェルバ賞を受賞。1994年には姫路城世界文化遺産指定記念のオペラ「おなつ・清十郎」の主役・清十郎を演じ好評を得る。その他、「魔笛」のタミーナ、「ラ・ボエーム」のロドルフォなど二枚目からコミカルな役まで幅広くこなす。故E・ヴェルバ、K・エクヴィルツ、佐々木成子、藤田裕行の各氏に師事。日本シューベルト協会会員。現在、京都市立芸術大学非常勤講師。

**揃 敏幸 (ロドルフォ/テノール)**

作陽音楽大学卒業、同大学専攻科修了。堤温、戸田政子の両氏に師事。1979年遼伊、ミラノのイタリア国立ヴェルディ音楽院に留学。A・ロフォレーゼ、L・グワリエーニの両氏に師事。ヴェルディ音楽院のオペラ公演でサリエリ「アルレッキーナ」のアルレッキーノ役で出演。その他、ヘンデル「メサイア」、バッハ、ハイドンなどのミサ曲、ベートーヴェン「第九」のソリストとして出演。オペラでは「コシ・ファン・トゥッテ」「フィガロの結婚」「魔笛」「ラ・ボエーム」などに出演。現在、日本演奏連盟会員。作陽音楽大学、広島文化女子短大講師、中国二期会会員。

**大原正義 (コルリーネ/バリトン)**

国立音楽大学声楽科卒業。益田遙、井上貞一の両氏に師事。ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」、ショスタコーヴィチ「森の歌」、ベートーヴェン「第九」のソリスト、オペラでは「ボギーとベス」のクラウン、「フィガロの結婚」のフィガロ、「泥棒とオールドミス」のボブ、「カルメン」のエスカミーリョ、「こもり」のファルケなどの他、「ワカヒメ」「夕鶴」など多数出演している。中国短期大学フラウエンコール指揮者、岡山大学男声合唱団コールロータスヴォイストレーナー、中国短期大学教授、山陽女子高等学校音楽科非常勤講師、中国二期会会員。

**井上敏典 (マルチェロ/バリトン)**

大阪音楽大学、同大学院歌劇科修了。1983年オペラ「夕鶴」の運ず役、関西歌劇団入団後は「賢い女」の王様役でデビュー。以後、「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「椿姫」など多数のオペラに主役として出演する一方、ソリストとしても活躍する。1984年第3回新人音楽コンクール大賞ならびに文部大臣奨励賞、1995年大阪文化祭奨励賞などを受賞。1993~94年、平成5年度文化庁芸術家在外研修員としてドイツ・ケルン国立音楽大学に留学。故廣岡隆正、横井輝男、アレキサンダー・コロ、ハンス・ゾーティンらに師事。現在、関西歌劇団団員、日本演奏連盟会員、大阪音楽大学講師。

**秋山 啓 (アルチンドロ・ブノア/バリトン)**

島根大学教育学部特設音楽課程声楽専攻卒業。同専攻科修了。森山俊雄、吉田功、黒岩悟、木下武久の各氏に師事。川崎製鉄水島混声合唱団を7年間、同女声合唱団「なでしこ」を3年間指導。岡山バッハカンタータフェラインにて毎年演奏会で合唱およびソロを行う。昭和54年より岡山市民合唱団「鷺羽」に在籍、現在発声指導を務める。昭和56年以来、毎年数本のオペラに出演。「魔笛」のババゲーノ、「夕鶴」の運ず、「フィガロの結婚」のバルトロ、「アマールと夜の訪問者」のバルサザール、「ワカヒメ」の弟君など幅広い役柄を保持。現在、岡山女子短期大学助教授。

**岡本茂朗 (マルチェロ/バリトン)**

愛知県立芸術大学音楽部声楽科卒業、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。大学院修了後、ミラノに留学。1992年10年、イタリアのウンヴェルティテ「リウニーティ」劇場にてチマローザ作曲「偶然の結婚」で主役デビュー。同年12月、ブダペスト国立歌劇場で「椿姫」のジェルモン役を客演。その後、「リゴレット」のリゴレット役等を選び、高い評価を受ける。イタリアを中心に各地で演奏活動を行うほか、国内でもソロ・リサイタルを開くなど意欲的に活躍。中島基晴、神田詩朗、東敦子、ラーヨシュ・コズマ、ジャンニ・マスティエーノの各氏に師事。

**川西 顕 (セルゲント/バリトン)**

作陽音楽大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業。通井求道、今西三典、田原祥一郎、大原正義の各氏に師事。同大学内卒業演奏会出演。中国二期会設立20周年記念オペラ・ガラコンサート、ロマンティックオペラコンサート、フレッシュコンサート、ドイツ歌曲の夕べ、オペラ「魔笛」の僧侶Ⅱおよび兵士Ⅱ役、喜劇「こもり」のプリント役、同「奥様女中」のヴェスポーネ(黙役)などで出演。中国二期会準会員。

**宮本益光 (ショナール/バリトン)**

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。現在、同大学大学院音楽研究科オペラ専攻に在籍。声楽を佐藤三三、高橋大海の両氏に師事。友愛ドイツ歌曲コンクール学生の部第1位。1994年ヘンデル「メサイア」のソリストとしてコンサートデビュー。オペラでは1996年にモーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」のマゼットでデビュー。その後「フィガロの結婚」の伯爵、「ラ・ボエーム」のマルチェロなどを演じる。1995年に同世代の作曲家・声楽家とともに新しい日本歌曲を創造する「桜声舎(おうせいしゃ)」を組織。自作曲を含め、多くの新作を初演、発表している。

倉敷管弦楽団

昭和49年設立。バロックから現代曲までの幅広い演奏活動で、昭和57年には岡山県文化功労賞、昭和60年には倉敷市文化連盟賞を受賞。これまでに佐藤裕、堤俊作の両氏をはじめ各地で活躍中の指揮者を客演として招くほか、フルートのピエール・ランバル、ピアノの花房晴美、ヴァイオリンのイヴリー・ギトリス、チェロの岩崎洗の各氏など第一線で活躍する多数の演奏家とも共演する。倉敷音楽祭には毎年出演、「11びきのネコ」などの演奏を行っている。

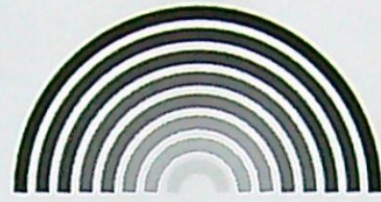
作曲家プロフィール**オペラ作曲家として初心貫徹の人生 プッチーニ(1858-1924)**

1858年12月22日、トスカーナの古都ルッカ生まれ。代々、音楽家という家系にあり、幼いころから叔父に音楽の手ほどきを受けるなど恵まれた環境に育ちながら、小さい頃はそれほど音楽が好きではなかったという。

そんな彼も、父の門下のアンジェローニの指導や母の励ましにより、次第に音楽に興味をもつようになる。決定打となったのは、18歳の時に観た名作オペラ「アイダ」。感激のあまり彼はオペラ作家になる決心をするが、当時は家が貧しく、憧れのミラノへの留学は夢のまた夢だった。

そこでまた彼に手をさしのべたのは母。彼の才能を確信した彼女の尽力により、女王の奨学金を受けて1880年にミラノの音楽学校に入学。しかし、2年目からは奨学金もなく、苦勞しながら友人のマスカーニとともに勉強に励んだ。その時の体験が「ラ・ボエーム」に生かされているのは言うまでもない。

卒業後の彼はまさにオペラ一筋であった。処女作の「ヴィツリ」、2作目「エドガル」「マノン・レスコー」と立て続けに話題作を発表。そして「ラ・ボエーム」「トスカ」「蝶々夫人」の3大名作により、押しも押されぬオペラ作家としての地位を築いていくのである。



あなたのオーダーで創る
「川鉄の鉄」

鉄は、新しい素材です。

硬くて軟らかい



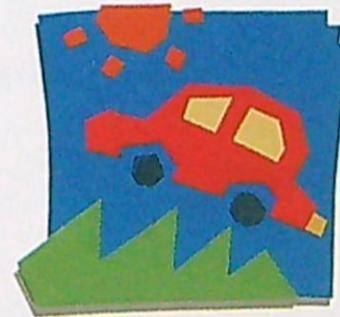
「不思議な鉄」

「ピカピカ
な鉄」



まるで鏡のように

「クリーンな鉄」



排気ガスを浄化する



「静かな鉄」

ソウが乗っても、シーン



さようならフロン



「地球にやさしい鉄」



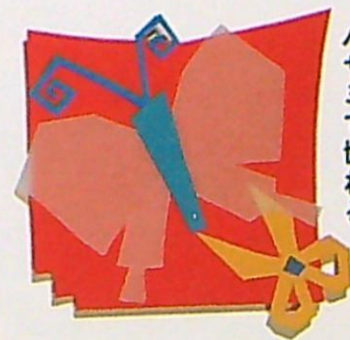
自由に成形できる

「しなやかな鉄」

「宇宙へはばたく鉄」



みんなの夢を乗せて



ハサミで切れる

「紙よりも薄い鉄」

「ラ・ボエーム」合唱団

■ソプラノ

中川しのぶ
岡野恭子
山下愛由子
山本温子
吉田智子
小野典子
宮本隆代
三宅史子
古瀬由美
大原久央子
原田香代子
戸叶久子
阿部純子
田代真弓
角田律子
宮岡久仁子
片山三千代
木村豊子
山本まさみ
若狭紀恵
河合裕子
和田展子
加藤利枝
秋山倫子

■アルト

脇本恵子
剣持美和子
原陽子
山田宏美
相磯真美子
藤高弘子
尾藤悦子
平川かおる
友保美代子
堀由枝
石寺美久子
竹本智美
大倉トシ子
高田清子
石原伸子
福田修子
清板佳代子
浜野田桂子
松本邦子
水田和美
永島未希
岡瑞代

■テノール

平尾嘉克
小畑淳
横川賢
土肥賢之
伊集院涉
寺井信示
厚見貴志
野口裕之
桐原陽一
中井章徳
大森功資
中川原繁誉
井内修
斎藤政直
山下和弘
広江正教
西村彰洋
中野幸弘
富田茂

■バス

藤沢学信
前島咬仁
角南治之
藤山慎介
酒井英樹
谷川論
大場康英
高橋昌之
安木清史
後藤暁
坪井禅
西村賢士
杉谷竜幸
草津和彦
塩飽一世
池田進一
徳田浩一
飯田永久
岡崎彰徳
西原義郎
畠山裕二

■倉敷管弦楽団

第1ヴァイオリン

佐藤真理子
阿曾沼和代
岡崎良弘
岩瀬裕子
大倉尚子
陶山容良
園田哲郎
西田紀子
丸山博樹
三宅美智子
福田みどり

第2ヴァイオリン

樽谷美幸
木村啓子
池上久美子
原田由紀恵
平松鋭子
藤原智子
三宅郁子
柳井典子

ヴィオラ

菊池東
久磨晶子
須藤京子
武本克巳

チェロ

光延勢吾
黒田正典
田辺幹夫
堀内千絵
水田年紀

コントラバス

本屋敷勝信
小林利江
藤井明美

フルート

坂口充倫
坂井昌子
月本裕子

オーボエ

細美肇
佐口康晴
西村生子

クラリネット

福力美保
安原由美
渡辺恭子

ファゴット

稲田裕彦
坂上仁志

ホルン

文谷功
板谷信昭
小山紀章
吉市幹雄

トランペット

原田宗範
高田忍
山口裕司

トロンボーン

松尾浩寿
曾布川拓也
光井伸行
樋口仁

打楽器

伊達明子
寺坂典子
寺崎淳
敏木真由香
山本智子
上内明里

倉敷音楽祭

—オペラ—
ラ・ボエーム

1997.3.15(土)・16(日)

倉敷市民会館

ご協力下さった方々

■友情出演

パルピニョール 松本敏雄
(中国二期会)
ドガニエーレ 金井庸記

■助演

三牧敏信(劇団ひびき)
海原伸二(劇団空想劇場)
大野隆史(")
兵藤正憲(")

■鼓笛隊

トランペット 林山文徳 長門信貴 濱田博子
中村隆子
ピッコロ 藤田美穂 松原佐織
ドラム 森永多美子

■兵隊

角良 則 西尾啓介 中西俊之 豊 哲也
植田真樹 菊池剛史 小西邦彦

■児童合唱

指導 河合 健 ピアノ 片岡ますみ
<倉敷少年少女合唱団, 水島少年少女合唱団, 児島少年少女合唱団>

石井敬子 大島さやか 岡崎麻衣 岡村綾乃
小原梨恵 近藤由紀 尻無浜恵梨 鳥越香緒理
水戸 彩 吉岡沙織 吉里雅代 赤沢知美
赤沢佳美 板谷理沙 小田麻美 在間 望
田野村麻由 平尾めぐみ 宮崎真実 山本麻衣

■合唱指導

加治郷子(中国二期会)
虫明和子(")
矢内淑子(")

■練習ピアニスト

栗平由紀子 佐伯勝子 鴨井敦子

■制作

玉垣夫規子(中国二期会)